



学校だより 9月号

横浜市立日吉南小学校

令和8年9月4日

ひよみなの情報は、学校ホームページからどうぞ [ホーム](#) - [日吉南小学校](#)

東北の風にふれて ～ 記憶と防災を考える夏～

校長 栗原 信一



▲石巻市立大川小学校（震災遺構）

東日本大震災から15年目の夏、私は東北の地を訪れました。いつか訪れたいと思っていた大川小学校の震災遺構、そして復興が進む陸前高田の街。現地に立つとどちらも静かに、そして確かに、あの日のことを語り続けているようでした。

石巻市にある大川小学校では、震災当時のまま残された校舎を前に、言葉を失いました。2階建ての校舎、教室の配置や校庭の広さ、周囲の地形を実際に見ると、子どもたちがどれほど厳しい状況の中で避難を余儀なくされたのか想像するだけで胸が締めつけられる思いでした。北上川河口から3.7km、誰が10メートルを越す津波が押し寄せると想像できたでしょうか。案内の方が語られた、「災害は、想定どおりには進まない」という言葉は、強く私の心に響きました。

次に訪れた陸前高田は、高校時代に仲間と泊まったユースホステルがあった場所です。海辺の宿で過ごした時間は今も心に残っています。そんな思い出の地を歩くと、当時の穏やかな風景と、震災後に生まれ変わった街の姿が重なり、なんだか胸がじんわりと熱くなりました。現在の陸前高田の街では、かさ上げされた広い土地に新しい建物が並び、人々の暮らしが力強く再び息づい

ていました。震災伝承館で聞いた、「命を守る行動は、迷わず、早く」という地域の方の言葉は、復興の歩みとともに、未来へ向けた大切なメッセージとして心に刻まれました。

今回の東北への旅は、災害の恐ろしさだけでなく、人々が立ち上がる力や、記憶をつないでいくことの大切さを改めて感じる貴重な時間となりました。そして、この学びは、私たちの学校の防災教育にも確かに生かしていかなければならないと強く感じています。

最近は大雨や地震などの自然災害が全国各地で発生しています。日吉南小学校もハザードマップを見ると浸水想定区域に位置しています。だからこそ、「まだ大丈夫だろう」と考えるのではなく、危険が予測される段階で早めに判断し行動することが大切だと思います。

横浜市では、気象状況によっては前日の段階で一斉休業を判断する仕組みが整えられました。登校後に危険が予測される場合には、学校では待機（留め置き）の徹底や保護者への引き渡しを確実にするなど、子どもたちの安全確保を最優先に対応することを全職員で共有しました。

また、この度横浜市学校防災計画の改訂を受け、緊急災害時における対応マニュアルの改訂を行い、学校ホームページにも掲載いたしました。ぜひ、ご家庭でもご確認いただき、お子さんと「もしも」の時の行動について話し合う機会としていただければ幸いです。

東北の風にふれた今夏。学校では、今後も子どもたちの命を守るための防災訓練をはじめ、地域、保護者の皆様と共に防災教育を進めていきたいと思っています。